



大分合同新聞  
ワークシート

菓子のやせうまを食べながら、アレンジレシピ  
を考える児童＝大分市王子新町の大分大付属小



【大分】「郷土料理やせうまの魅力」を『新発見・深発見』してもらおうと、大分市王子新町の大分大付属小6年1組の児童33人がアレンジレシピの開発に知恵を絞っている。9月28日、同市のやせうま本舗田口菓子舗の田口永依子専務取締役(36)から商品への思いや工夫を聞き、ヒントをもらった。

# やせうまを よりおいしく

〔問①〕大分大付属小6年1組の総合的な学習の時間での目標は何ですか？記事の中から書き抜きましょう。

自分たちの力で大分市

の人のためになること

を社会に発信する

## 大分大付属小児童 新レシピに挑戦

### プロのヒントを参考に

〔問②〕田口専務は商品のパッケージにどんなことを表現したいと話していますか？記事の中から書き抜きましょう。

大分らしさ

総合的な学習の時間での取り組み。「自分たちの力で大分市の人のためになることを社会に発信する」を目標に、全員で話し合いながら授業を進めている。田口専務取締役は看板商品「豊後銘菓やせうま」が65年前に誕生したエピソードや原材料へのこだわり、大分らしさを表現したパッケージについて話した。土産品だけでなく、日常的に味わってもらうための試みも紹介。きな粉のソフトクリームと合わせた新商品を開発したり、地元の料理人と組んでデザートを作り、レシピを公開したり。PRに交流サイト(SNS)を活用していることを伝えたい。「やせうまはチョコレート、カボスやミカンなどかんきつと相性がいい」とアドバイス。児童は竹をイメージした包装紙や七鳥イのひもを観察し、菓子を味わった。やせうまトーストやパフェなどがアレンジレシピの候補に挙がっているという。河野雄太君(12)は「ネットで調べるより、じかに会って話を聞く方が思いが伝わった。食べやすくおいしいレシピを完成させ、大分の人に広めたい」。10月は由布市挾間町の「やせうま保存会」に作り方を習う。(藤沢香)



「郷土の味を広めていきたい」と話すやせうま本舗田口菓子舗の田口永依子専務取締役

〔問③〕河野雄太君は「〇〇〇で調べるより、じかに会って話を聞く方が□□が伝わった」と話しています。〇と□にあてはまる言葉を記事の中から探して書きましょう。

ネ ッ ト で調べるより、   が伝わった

〔問④〕あなたの地域の郷土料理は何ですか？また、その郷土料理を多くの人に知ってもらうアイデアも考えてみましょう。

※調べ学習、自由記述